

2025 年度 琉球大学医学部皮膚科

A. 専門医研修の教育ポリシー：

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

B. プログラムの概要：

本プログラムは、琉球大学病院を研修基幹施設として、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、国立大学法人京都大学医学部附属病院、近畿大学病院、神戸大学医学部附属病院、地方独立行政法人那覇市立病院、社会医療法人友愛会豊見城中央病院、国立療養所沖縄愛楽園、沖縄県立南部医療センター・こども医療センター、沖縄赤十字病院を研修連携施設として、公益社団法人北部地区医師会北部地区医師会病院、国立療養所宮古南静園、沖縄県立宮古病院を準連携施設として加えた研修施設群を統括する研修プログラムである。

なお、本プログラムは各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定している。（項目 J を参照のこと）

C. 研修体制

研修基幹施設：琉球大学病院皮膚科

研修プログラム統括責任者（指導医）：高橋 健造 専門領域：角化症、乾癬、膠原病、皮膚科一般

指導医：柳 輝希 専門領域：皮膚科一般、皮膚腫瘍

指導医：山口 さやか 専門領域：皮膚科一般、皮膚感染症、ハンセン病

指導医：内海 大介 専門領域：皮膚科一般、遺伝性皮膚疾患

指導医：宮城 拓也 専門領域：皮膚科一般、アレルギー、膠原病

指導医：野中 公子 専門領域：皮膚科一般、皮膚腫瘍

指導医：大平 葵 専門領域：皮膚科一般

指導医：兼島 明子 専門領域：皮膚科一般

指導医：上原 遥 専門領域：皮膚科一般

施設特徴：

専門外来として、皮膚膠原病外来、乾癬外来、皮膚腫瘍外来、皮膚感染症外来、アレルギー外来、白斑外来を設けており、外来患者数は1日平均150名にのぼり、豊富な経験を積むことが可能。また、年間手術件数は400症例を超える。研究の面では、いくつかのグループを作り、指導医との連携を強め、多様な研究結果を創出している。沖縄県内の皮膚疾患全般の最終診断、治療を行っており、外来手術を除いた年間入院手術件数は、約250症例にのぼる。

研修連携施設：独立行政法人国立病院機構京都医療センター

所在地：京都市伏見区深草向畑町1-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：十一 英子

特徴：研修連携施設である京都医療センターでは、急性期皮膚疾患や皮膚コモンディーズ、日常的な皮膚疾患に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、地域医療の実践、病診連携を習得し、琉球大学医学部皮膚科の研修を補完する。連携研修施設で、少なくとも1年以上の研修を行う。

研修連携施設：国立大学法人 京都大学医学部附属病院

所在地：京都市左京区聖護院川原町54番地

プログラム連携施設担当者（指導医）：椛島 健治

特徴：研修連携施設である沖京都大学医学部附属病院では、急性期皮膚疾患や皮膚コモンディーズ、日常的な皮膚疾患に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、地域医療の実践、病診連携を習得し、琉球大学医学部皮膚科の研修を補完する。連携研修施設で、少なくとも1年以上の研修を行う。

研修連携施設：近畿大学病院

所在地：大阪狭山市大野東377-2

プログラム連携施設担当者（指導医）：大塚 篤司

特徴：研修連携施設である近畿大学病院では、急性期皮膚疾患や皮膚コモンディーズ、日常的な皮膚疾患に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、地域医療の実践、病診連携を習得し、琉球大学医学部皮膚科の研修を補完する。連携研修施設で、少なくとも1年以上の研修を行う。

研修連携施設：神戸大学医学部附属病院

所在地：神戸市中央区楠町7丁目5番地2号

プログラム連携施設担当者（指導医）：久保 亮治

特徴：研修連携施設である神戸大学附属病院では、急性期皮膚疾患や皮膚コモンディーズ、日常的な皮膚疾患に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、地域医療の実践、病診連携を習得し、琉球大学医学部皮膚科の研修を補完する。連携研修施設で、少なくとも1年以上の研修を行う。

研修連携施設：地方独立行政法人 那覇市立病院

所在地：沖縄県那覇市古島2-31-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：粟澤 剛

特徴：研修連携施設である那覇市立病院皮膚科病院では、急性期皮膚疾患や皮膚コモンディーズ、日常的な皮膚疾患に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、地域医療の実践、病診連携を習得し、琉球大学医学部皮膚科の研修を補完する。連携研修施設で、少なくとも1年以上の研修を行う。

研修連携施設：社会医療法人友愛会 豊見城中央病院

所在地：沖縄県豊見城市字上田25番地

プログラム連携施設担当者（指導医）：安村 涼

特徴：研修連携施設である豊見城中央病院では、急性期皮膚疾患や皮膚コモンディーズ、日常的な皮膚疾患に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、地域医療の実践、病診連携を習得し、琉球大学医学部皮膚科の研修を補完する。連携研修施設で、少なくとも1年以上の研修を行う。

研修連携施設：国立療養所沖縄愛楽園

所在地：沖縄県名護市字済井出1192番地

プログラム連携施設担当者（指導医）：大平 葵

特徴：研修連携施設である国立療養所沖縄愛楽園では、急性期皮膚疾患や皮膚コモンディーズ、日常的な皮膚疾患に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、地域医療の実践、病診連携を習得し、琉球大学医学部皮膚科の研修を補完する。連携研修施設で、少なくとも1年以上の研修を行う。

研修連携施設：沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

所在地：沖縄県島尻郡南風原町字新川118-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：屋宜 宣武

特徴：研修連携施設である県立南部医療センター・こども医療センターは、急性期皮膚疾患や皮膚コモンディーズ、日常的な皮膚疾患に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、地域医療の実践、病診連携を習得し、琉球大学医学部皮膚科の研修を補完する。連携研修施設で、少なくとも1年以上の研修を行う。

研修連携施設：沖縄赤十字病院

所在地：沖縄県那覇市与儀1-3-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：上原 絵里子

特徴：研修連携施設である沖縄赤十字病院皮膚科では、急性期皮膚疾患や皮膚コモンディーズ、日常的な皮膚疾患に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、地域医療の実践、病診連携を習得し、琉球大学医学部皮膚科の研修を補完する。

研修連携施設：沖縄県立宮古病院

所在地：沖縄県宮古島市平良字下里427-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：

特徴：準連携施設である沖縄県立宮古病院では、上級指導医のもと、最長1年間の研修を行う研修コースを用意する。医員として研修する専攻医は、琉球大学医学部皮膚科の指導医と密に連絡を取り、診療の相談、カンファレンスへの参加を随時行う。

研修準連携施設：公益社団法人 北部地区医師会 北部地区医師会病院

所在地：沖縄県名護市宇字茂佐1712-3

研修準連携施設：国立療養所宮古南静園

所在地：沖縄県宮古島市平良字島尻888

研修準連携施設：沖縄県立宮古病院

所在地：沖縄県宮古島市平良字下里427-1

研修管理委員会に関して

研修基幹施設には、専攻医の研修を統括的に管理するための組織として以下の研修管理委員会を置く。研修管理委員会委員は研修プログラム統括責任者、プログラム連携施設担当者、指導医、他職種評価に加わる看護師等で構成される。研修管理委員会は、専攻医研修の管理統括だけでなく専攻医からの研修プログラムに関する研修評価を受け、施設や研修プログラム改善のフィードバックなどを行う。専攻医は十分なフィードバックが得られない場合には、専攻医は日本専門医機構皮膚科領域研修委員会へ意見を提出できる

研修管理委員会委員：

- 委員長：高橋 健造 (琉球大学病院皮膚科 教授)
- 委員：柳 輝希 (琉球大学病院皮膚科 准教授)
- 委員：山口 さやか (琉球大学病院皮膚科 講師)
- 委員：宮城 拓也 (琉球大学病院皮膚科 診療講師)
- 委員：上原 絵里子 (沖縄赤十字病院皮膚科 科長)
- 委員：安村 涼 (豊見城中央病院皮膚科 科長)
- 委員：粟澤 剛 (那覇市立病院皮膚科 科長)
- 委員：屋宜 宣武 (県立南部医療センター・こども医療センター 科長)
- 委員：深井 恭子 (国立療養所 沖縄愛楽園 皮膚科)
- 委員：梶島 健治 (京都大学医学部附属病院 皮膚科教授)
- 委員：十一 英子 (独立大学法人国立病院機構 京都医療センター)
- 委員：久保 亮治 (神戸大学医学部附属病院皮膚科 教授)
- 委員：大塚 篤司 (近畿大学医学部附属病院皮膚科 教授)

他科・他職種

- 委員：當間 末美 (琉球大学医学部附属病院看護部外来副看護師長)
- 委員：根保 愛 (琉球大学医学部附属病院看護部病棟看護師長)
- 委員：平良智恵美 (琉球大学医学部附属病院看護部褥瘡対策室看護師長)

研修資源実績 (外来患者数・入院患者数・指導医数：本プログラムの按分数)

	1日平均外 来患者数	1日平均入 院患者数	局所麻酔年間手術 数 (含生検術)	全身麻酔年 間手術数	指導 医数
琉球大学病院	105.7	13.1	649	13	7.4
独立行政法人国立病院機構 京都医療センター	1	0.1	366	0	0.1
国立大学法人 京都大学医 学部附属病院	1	1	1604	88	0.1
近畿大学病院	9.9	0.9	434	47	0.1
神戸大学医学部附属病院	1	1	862	74	0.2
社会医療法人友愛会 豊見 城中央病院	36	6.4	356	0	1
国立療養所沖縄愛楽園	20	0.1	10	0	4
沖縄県立南部医療セン ター・こども医療センター	28.4	2.4	259	23	1
沖縄赤十字病院	25.9	3	270	2	2
沖縄県立宮古病院 社会医療法人敬愛会中頭病 院					
合計	228.9	28.0	4810	247	15.9

D. 募集定員：7名

- ①通常プログラム：7名

E. 研修応募者の選考方法：

書類審査、小論文および面接により決定（琉球大学医学部皮膚科のホームページ等で公表する）。また、選考結果は、本人あてに別途通知する。なお、応募方法については、琉球大学皮膚科医局へ問い合わせ、履歴書と併せて提出すること。

F. 研修開始の届け出：

選考に合格した専攻医は、研修開始年の3月31日までにプログラム研修開始届に必要な事項を記載のうえ、プログラム統括責任者の署名捺印をもらうこと。その後、同年4月30日までに皮膚科領域専門医委員会（hifu-senmon@dermatol.or.jp）に通知すること。

G. 研修プログラム 問い合わせ先：

琉球大学病院
宮城拓也

TEL：098-895-1153

FAX：098-895-1417

メールアドレス：hihuka@jim.u-ryukyuu.ac.jp

H. 到達研修目標：

本研修プログラムには、いくつかの項目において、到達目標が設定されている。別冊の研修カリキュラムと研修の記録を参照すること。特に研修カリキュラムのp.26～27には経験目標が掲示しているので熟読すること。

I. 研修施設群における研修分担：

それぞれの研修施設の特徴を生かした皮膚科研修を行い、研修カリキュラムに掲げられた目標に従って研修を行う。

1. 研修基幹施設である琉球大学病院皮膚科では、医学一般の基本的知識技術を習得させた後、皮膚の生理や機能の理解の元、難治性疾患、悪性腫瘍、稀な皮膚疾患などより専門性の高い疾患の診断・治療の研修を行う。皮膚病理診断の学習とともに、生物学的製剤の使用法等も習得する。さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの総合力を培う。また、少なくとも1年間の研修を行う。

2. 研修連携施設である沖縄赤十字病院皮膚科、那覇市立病院皮膚科、県立南部医療センター・こども医療センター、国立療養所沖縄愛楽園、京都大学医学部附属病院、京都医療センター、神戸大学附属病院、近畿大学病院 などでは、急性期皮膚疾患や皮膚コモンディーズ、日常的な皮膚疾患に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、地域医療の実践、病診連携を習得し、琉球大学医学部皮膚科の研修を補完する。連携研修施設で、少なくとも1年以上の研修を行う。

3. 準連携施設である国立療養所宮古南静園、沖縄県立宮古病院では、北部地区医師会病院では上級指導医のもと、最長1年間の研修を行う研修コースを用意する。医員として研修する専攻医は、前者は琉球大学医学部皮膚科の指導医と密に連絡を取り、診療の相談、カンファレンスへの参加を随時行う。

J. 研修内容について**1. 研修コース**

本研修プログラムでは、以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成する。ただし、研修施設側の事情により希望するコースでの研修が出来ないこともあり得る。また、記載されている異動時期についても研修施設側の事情により変更となる可能性がある。

コース	研修1年目	研修2年目	研修3年目	研修4年目	研修5年目
a	基幹	基幹	連携	連携	準連携
b	基幹	基幹	連携	連携	連携
c	連携	連携	基幹	基幹	準連携
d	基幹	連携	連携	準連携	基幹
e	基幹	連携	連携	大学院(研究)	大学院(臨床)
f	連携	大学院(研究)	大学院(研究)	大学院(臨床)	大学院(臨床)

a：研修基幹施設を中心に研修する基本的なコース。最終年次に大学で後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補う。連携施設は原則として1年ごとで異動するが、諸事情により2年間同一施設もあり得る。

b：ただちに皮膚科専門医として活躍できるように連携施設にて臨床医としての研修

に重点をおいたコース。

c：研修連携施設から研修を開始するコース。

d：研修4年目に一人医長として研修準連携施設で研修し、地域医療の経験を積み、翌年大学にて研修するコース。

e：研修後半に、博士号取得のための研究を開始するプログラム。博士号取得の基本的コース。

f：専門医取得と博士号取得を同時に目指すハイパーコース。多大な努力を5年間持続する必要がある。特に4年目、5年目は濃密な臨床研修を行わないとカリキュラム修了は困難である。カリキュラムを修了できない場合は6年目も大学で研修することを前提とする。

2. 研修方法

1) 琉球大学病院皮膚科

外来：

診察医に陪席し、外来診察、外来での皮膚科処置、皮膚科病理検査、光学治療を経験する。

病棟：

病棟医長や指導医のもと、大きく皮膚外科と皮膚膠原病、アレルギーの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の外来患者カンファレンス、病理カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。

抄読会では、定期的に英文論文を紹介する。研修段階に準じ、臨床論分、基礎研究論文、メタ解析論分などを理解した上で紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に3回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	病棟	外来	病棟 中央 手術 カンファ レンス	外来	外来 手術		
午後	病棟回診 外来・病 理 カンファ レンス	病棟	病棟 手術	病棟	病棟 手術		

2) 連携施設

独立行政法人国立病院機構京都医療センター：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法や、皮膚科医として必要な診断力と診療技術を習得する。カンファレンスで症例検討を行い、症例についての理解を深める。生検症例はすべて病理カンファレンスで直接所見をよむ。複数科で診療する症例は、他科との合同カンファレンスで治療方針を検討し、チーム医療を学ぶ。褥瘡回診に参加し、褥瘡対策を習得する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、筆頭演者として学会発表を行い、論文を執筆する。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		
午後前半	生検、処 置	生検、処 置	手術	生検、処 置	生検、処 置		
午後後半	病棟 回診 合同カンファ レンス*	病棟 カンファ レンス	病棟 褥瘡 回診 カンファ レンス	病棟 病理 カンファレンス	病棟 回診 カンファレンス	当直※	

*糖尿病足病変カンファレンス、皮膚形成カンファレンスを各1回/月 ※当直は2回/月を予定

国立大学法人 京都大学医学部附属病院：

外来：診察医に陪席し，外来診察，皮膚科的検査，治療を経験する。病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察，検査，外用療法，手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い，評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い，評価を受ける。抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また，皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 手術	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟 回診	病棟 病理	病棟 カンファレンス 回診	病棟 手術	病棟 手術		

近畿大学病院：

外来：診察医に陪席し，外来診察，皮膚科的検査，治療を経験する。病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察，検査，外用療法，手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い，評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い，評価を受ける。抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また，皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 手術	回診	外来	外来 手術		
午後	病棟 外来	病棟 病理	病棟 外来 カンファレンス	病棟	病棟	宿直※	

※宿直は1回/月を予定

神戸大学医学部附属病院：

外来：診察医に陪席し，外来診察，皮膚科的検査，治療を経験する。病棟：病棟医長のもと数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医のもと担当患者の診察，検査，外用療法，手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い，評価を受ける。毎週の病理カンファレンスで症例発表を行い，評価を受ける。抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また，皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来 手術	外来	外来		
午後	病棟	病棟 カンファレンス 回診 病理	病棟 手術	病棟	病棟		

地方独立行政法人 那覇市立病院：

指導医の下，地域医療の中核病院の勤務医として，第一線の救急医療，処置，手術法を習得する。琉球大学医学部皮膚科の病理カンファレンス，抄読会に週1回参加し学習する。必須の講習会を受講し，年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会，学術講演会，セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	病棟	外来 手術	病棟	外来		
午後	病棟 手術	外来 カンファレンス	病棟 カンファレンス	外来	病棟 手術		

社会医療法人友愛会 豊見城中央病院：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。琉球大学医学部皮膚科の病理カンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 手術	外来	外来 手術	外来		
午後	病棟 外来	病棟 カンファレンス	病棟 外来	病棟 カンファレンス	病棟 外来		

国立療養所沖縄愛楽園：

指導医の下、沖縄県北部地域の中核病院の勤務医として、急性期から慢性の皮膚疾患への対処や手術法を習得する。特に当該施設はハンセン病の療養施設であり、高齢化した100名以上の元ハンセン病患者が居住する。このため難治性足潰瘍などの創傷処置に関し、外科的、内科的対処を多数例経験し、対処法を取得する。毎週月曜日には琉球大学医学部皮膚科の病理カンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 施設内の回診	外来	外来 施設内の回診	外来	外来 施設内の回診		
午後	カンファレンス	院内処置	院内処置	院内処置	手術		

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。琉球大学医学部皮膚科の病理カンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 手術	外来	外来 手術	外来		
午後	病棟 カンファレンス	外来	病棟 カンファレンス	外来	病棟 手術		

沖縄赤十字病院：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。琉球大学医学部皮膚科の病理カンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 手術	外来	外来 手術	外来		
午後	病棟 外来カンファレンス	病棟	病棟 外来カンファレンス	病棟	病棟 外来	宿直※	

※ 宿直は1回/月を予定

沖縄県立宮古病院：

社会医療法人敬愛会中頭病院：

3) 大学院(臨床)

基本的に午前中は大学病院にて1)と同様にフルタイムで臨床の研修し、午後は大学院講義出席、基礎研究、臨床研究、論文作成等を行う。

4) 大学院(研究)

皮膚科以外の基礎教室や、他大学の研究施設において皮膚科に関連する研究を行う。この期間、大学病院での研修および達成度評価・年次総合評価は不要とする。

5) 研修準連携施設

国立療養所宮古南静園、沖縄県立宮古病院、北部地区医師会病院には現在、皮膚科指導医が不在であるが、地域医療を担う重要な病院である。皮膚科医として独立した診療が出来るよう経験と知識をより深化するため専門研修の後半に1年間以下に限り、上級医師の元、医員として診療を行うことがある。また、大学病院および近隣の研修連携施設(沖縄赤十字病院・那覇市立病院)に患者紹介や診療相談を行うことにより、病診連携を習得する。

6) 研修準連携施設

公益社団法人 北部地区医師会 北部地区医師会病院

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。琉球大学医学部皮膚科の病理カンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表：

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 手術	外来	外来 手術	外来		
午後	病棟 外来	病棟 カンファレンス	病棟 外来	病棟 カンファレンス	病棟 外来		

研修の年間予定表

月	行事予定
4	1年目：研修開始。皮膚科領域専門医委員会に専攻医登録申請を行う。2年目以降：前年度の研修目標達成度評価報告を行う。
5	皮膚悪性腫瘍学会
6	日本皮膚科学会総会
7	
8	研修終了後：皮膚科専門医認定試験実施 沖縄県皮膚科地方会
9	
10	試験合格後：皮膚科専門医認定
11	皮膚アレルギー学会 沖縄県皮膚科地方会
12	研修プログラム管理委員会を開催し、専攻医の研修状況の確認を行う(開催時期は年度によって異なる) 沖縄県皮膚科地方会 研究皮膚科学会
1	
2	5年目：研修の記録の統括評価を行う。
3	当該年度の研修終了し、年度評価を行う。 皮膚科専門医受験申請受付

K. 各年度の目標：

1, 2年目：主に琉球大学医学部皮膚科において、カリキュラムに定められた一般目標、個別目標（1.基本的知識2.診療技術3.薬物療法・手術・処置技術・その他治療4.医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識5.生涯教育）を学習し、経験目標（1.臨床症例経験2.手術症例経験3.検査経験）を中心に研修する。

3年目：経験目標を概ね修了し、皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。

4,5年目：経験目標疾患をすべて経験し、学習目標として定められている難治性疾患、稀な疾患など、より専門性の高い疾患の研修を行う。3年目までに習得した知識、技術をさらに深化・確実なものとし、生涯学習する方策、習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形での研究活動に携わり、その成果を国内外の学会で発表し、論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり、研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。

毎年度：日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また、沖縄県皮膚科地方会には可能な限り出席する。各疾患の診療ガイドラインを入手し、診療能力の向上に努める。PubMedなどの検索や日本皮膚科学会が提供するE-ラーニングを受講し、自己学習に励む。

L. 研修実績の記録：

1. 「研修手帳」を、日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし、利用すること。
2. 専攻医研修管理システムおよび会員マイページ内に以下の研修実績を記録する。経験記録（皮膚科学各論、皮膚科的検査法、理学療法、手術療法）、講習会受講記録（医療安全、感染対策、医療倫理、専門医共通講習、日本皮膚科学会主催専攻医必須講習会、専攻医選択講習会）、学術業績記録（学会発表記録、論文発表記録）。
3. 専門医研修管理委員会はカンファレンスや抄読会の出席を記録する。
4. 専攻医、指導医、総括プログラム責任者は専攻医研修管理システムを用いて下記（M）の評価後、評価票を毎年保存する。
5. 「皮膚科専門医研修マニュアル」を、日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし、確認すること。特にp.15～16では「皮膚科専攻医がすべきこと」が掲載されているので注意すること。

M. 研修の評価：

診療活動はもちろんのこと、知識の習熟度、技能の修得度、患者さんや同僚、他職種への態度、学術活動などの診療外活動、倫理社会的事項の理解度などにより、研修状況を総合的に評価され、「研修の記録」に記録される。

1. 専攻医は「研修の記録」のA.形成的評価票に自己評価を記入し、毎年3月末までに指導医の評価を受ける。また、経験記録は適時、指導医の確認を受け確認印をもらう。
2. 専攻医は年次総合評価票に自己の研修に対する評価、指導医に対する評価、研修施設に対する評価、研修プログラムに対する評価を記載し、指導医に提出する。指導医に提出しづらい内容を含む場合、研修プログラム責任者に直接口頭、あるいは文書で伝えることとする。
3. 指導医は専攻医の評価・フィードバックを行い年次総合評価票に記載する。また、看護師などに他職種評価を依頼する。以上を研修プログラム責任者に毎年提出する。
4. 研修プログラム責任者は、研修プログラム管理委員会を開催し、提出された評価票を元に次年度の研修内容、プログラム、研修環境の改善を検討する。
5. 専攻医は研修修了時までに全ての記載が終わった「研修の記録」、経験症例レポート15例、手術症例レポート10例以上をプログラム統括責任者に提出し、総括評価を受ける。
6. 研修プログラム責任者は、研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し、総括評価を記載した研修修了証明書を発行し、皮膚科領域専門医委員会に提出する。

N. 研修の休止・中断、異動：

1. 研修期間中に休職等により研修を休止している期間は研修期間に含まれない。
2. 研修期間のうち、産休・育休に伴い研修を休止している期間は最大6ヶ月までは研修期間に認められる。なお、出産を証明するための添付資料が別に必要となる。
3. 諸事情により本プログラムの中断あるいは他の研修基幹施設のプログラムへ異動する必要がある場合、すみやかにプログラム統括責任者に連絡し、中断あるいは異動までの研修評価を受けること。

○. 労務条件, 労働安全:

労務条件は勤務する病院の労務条件に従うこととする。
給与, 休暇等については各施設のホームページを参照, あるいは人事課に問い合わせること。なお、当院における当直はおおむね2~3回/月程度である。

2025年4月7日
琉球大学病院皮膚科
専門研修プログラム統括責任者
高橋 健造